

仙葉 豊先生の略歴と業績一覧

学 歴

- 1966年 3月 東京都立西高等学校卒業
1967年 4月 東京外国語大学中国語科入学
1968年 2月 同大学同科退学
1968年 4月 大阪大学文学部入学
1973年 3月 同大学同学部卒業
1973年 4月 大阪大学大学院文学研究科修士課程英文学専攻入学
1975年 3月 同大学同研究科同課程同専攻修了
1975年 4月 大阪大学大学院文学研究科博士課程英文学専攻入学
1975年 5月 同大学同研究科同課程同専攻中退

学 位

文学博士 (大阪大学)

職 歴

- 1975年 6月 防衛大学校人文科学教室助手
1978年 4月 同大学校同教室講師
1981年 3月 同大学校同教室退職
1981年 4月 大阪大学言語文化部助教授
1983年10月 米国ワイオミング州立大学外国語学科助教授
(大阪大学との交換プログラムにて招聘される。至1994年 9月)
1991年10月 米国ワイオミング州立大学外国語学科助教授
(大阪大学との交換プログラムにて招聘される。至1992年 9月)
1993年 4月 大阪大学言語文化研究科教授
2008年 3月 同大学同研究科退職
2008年 4月 関東学院大学文学部英語英米文学科教授
2018年 3月 同大学国際文化学部英語文化学部教授退職

上記のほかに、関東学院大学英語英米文化学部在職中、文学研究科委員長、関東学院大学評議員を勤めた。

受賞

1978年 5月 日本英文学会第1回新人賞受賞

業績一覧

I. 著書 (共著)

- 1981年 3月 「デフォーの幽霊実話とそのモデル」『山川鴻三教授退官記念
論文集』英宝社 156-167頁。
- 1984年 3月 「カーネル・ジャック—貧民から紳士へ—」『イギリスの社会
小説』東海大学出版会 5-43頁。
- 1986年 4月 「デフォーの海賊たち—Avery Singleton Misson—」『イギ
リス文学評論Ⅰ』創元社 103-119頁。
- 1987年 4月 「スウィフトの暗い低音部—『控えめな提案』を中心に—」『イ
ギリス文学評論Ⅱ』創元社 115-127頁。
- 1987年12月 「Defoe と Swift —作者の誕生日前夜—」『イギリスの表層と深
層—英米文学の視点から—』内多毅博士喜寿記念論集 東海
大学出版会 81-88頁。
- 1994年 4月 「Pamela の "thou"—この異質なるもの—」『イギリス文学評
論Ⅳ』創元社 83-91頁。
- 1994年10月 「デフォーとスウィフト—旅行記の枠組みからみた『ガリヴァー
旅行記』—」『イギリス文学展望—ルネッサンスから現代ま
で—』山口書店 199-214頁。
- 1995年10月 「スウィフトの体内風景—書物食いのイメージについて—」『風
景の修辞学』英宝社 53-80頁。
- 1996年 4月 「吾輩は犬ではないという漱石」『言語と文化の諸相』奥田博
之教授退官記念論文集刊行会 英宝社 189-203頁。
- 1996年 8月 「樽と蒸留器と人体と—スウィフトの『桶物語』における医

- 学的メタファー」『シェイクスピア饗宴—英文学の視座から—』
斎藤衛教授退官記念論文集刊行会 英宝社 347-368頁.
- 1996年 8月 「漱石の異文化ストレス」『第28回大阪大学開放講座テキスト』
大阪大学 79-84頁.
- 1997年11月 「ホガースにおける性表象について」『言語文化学論』大阪大
学出版会 201-212頁.
- 1999年12月 「*Pamela*における誘惑とレイプ— Shamela、Syrena、そし
て Colonel Charteris—」『藤井治彦先生記念論文集』英宝社
345-357頁.
- 2000年 3月 「*Pamela II*における Mrs. Bの家族形成」『英語・英米文学の
エースとパトス』大阪教育図書 165-176頁.
- 2002年10月 「『ロビンソン・クルーソー』と小説の形成」『岩波講座 文学』
第3巻『物語から小説へ』岩波書店 83-104頁.
- 2003年11月 「漱石と神経衰弱と退化と」『運動+ (反) 成長—身体医文
化論 II』慶應義塾大学出版会 181-201頁.
- 2004年 5月 「クラリッサの死因—メランコリーとショックと神経と—」
『病いと身体の英米文学』玉井 暉・仙葉 豊共編 英宝社
133-155頁.
- 2004年11月 「メランコリーと腐敗の体内イメージ—精気と瘴気と神経と—」
『腐敗と再生—身体医文化論 III』慶應大学出版会 160-
181頁.
- 2005年 3月 「漱石の『木屑録』と海水浴」『テクストの地平』英宝社
263-276頁.
- 2006年 3月 「メランコリーの妙薬、hobbyhorse—漱石・リチャードソン・
スターン—」『シュンボシオン—高岡幸一教授退職記念論集—』
朝日出版社 405-414頁.
- 2006年 3月 「神経衰弱とは何であったか—漱石・ビアード・ノルダウ—」
『言語と文化の饗宴—中埜芳之教授退職記念論文集—』仙葉
豊・高岡幸一・細谷行輝共編 英宝社 152-170頁.
- 2007年 3月 「『吾輩は猫である』におけるメランコリーと神経衰弱」『夏
目漱石における』東と西』松村昌家編 思文閣出版 29-56頁.
- 2007年 9月 「トラウマ小説としての『クラリッサ』」『十八世紀英文学論集』
仙葉 豊・能口盾彦・干井洋一共編 英宝社 344-367頁.

- 2009年4月 「身の上相談と小説の起源」『英語のしくみとこころ—英語の世界を探る—』 関東学院大学文学部英語英米文学科編 関東学院大学出版会 139-167頁.
- 2010年3月 「ホガースの『兎を産んだ女』について—想像と妊娠の間—」『英米文学の可能性——玉井暲教授退職記念論文集——』 英宝社 261-274頁.
- 2016年8月 「〈文明化〉の病としての神経衰弱—漱石の『それから』とギルマンの「黄色い壁紙」を中心に」『帝国と文化—シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』 春風社 304-321頁.

II. 論文

- 1973年12月 「宗教人 Robinson Crusoe」 *Osaka Literary Review* (大阪大学文学部大学院) No. 12 37-45頁.
- 1976年3月 「Moll Flanders と内なる悪魔」 『防衛大学校紀要』 第32輯 305-342頁.
- 1976年12月 「*Roxana* の主題と構成」 *Osaka Literary Review* (大阪大学文学部大学院) No. 15 37-50頁.
- 1977年9月 「漱石内部のU字構造—あるいは『文学評論』と『三四郎』—」 『走水評論』 (防衛大学校人文教室) 23 47-67頁.
- 1978年12月 「Defoe における fiction の始まりと終わり」 (日本英文学会 第1回新人賞受賞論文) 『英文学研究』 (日本英文学会) Vol. LV, No. IVII 277-289頁.
- 1982年9月 「Defoeの *Plague Year* と疫病対策」 日本18世紀学会 『学会ニュース』 第10号 4-11頁.
- 1986年1月 「フウイヌム・ランドの"hard"的解釈」 『英語青年』 2月号 研究社 542-546頁.
- 1992年5月 「Defoeの"amphibious Creature"たち」 『英国小説研究』 第16冊 英潮社 (英国小説研究同人編) 73-108頁.
- 1993年5月 「漱石と18世紀英文学—諷諭としての『文学評論』—」 『分水嶺』 第2号 (分水嶺同人会編) 52-100頁.
- 1995年5月 「管のイコノロジー—Swiftの糞便と風刺—」 『英国小説研究』 第17冊 英潮社 (英国小説研究同人編) 53-90頁.

- 1997年 3月 「女衞と故買における欲望の三角形—Moll Frith/Flanders/HackaboutそしてJonathan Wild—」『英国小説研究』第18冊 英潮社（英国小説研究同人編） 1 - 45頁.
- 1999年 5月 「Hogarthの*Marriage-a-la-Mode*—意味の過剰と物語性—」『英国小説研究』第19冊 英潮社（英国小説研究同人編） 1 - 45頁.
- 1999年12月 「大江健三郎における自死と樹霊と共同体」『千里文芸』（千里ニュータウン読書研究会）82 - 103頁.
- 2000年 3月 「失神の発見—Pamelaと神経医Cheyne—」『英語青年』4月号 第146巻 第1号 57 - 62頁.
- 2001年 3月 「蛇と女と病む男」—映画『それから』について—『映像と文化』（言語文化共同研究プロジェクト2000・大阪大学言語文化研究科）49 - 60頁.
- 2001年 9月 「漱石と古白と『春の人』」『芽萌えんと森』（同人誌）第4集 21 - 32頁.
- 2002年 3月 「『危険な情事』における日本的な要素」『映像と文化 II』（言語文化共同プロジェクト2001・大阪大学言語文化研究科）11 - 17頁.
- 2002年 3月 「『市民ケーン』における蕩尽的消費」『現代社会における消費文化の構造と生成』（言語文化共同プロジェクト2001・大阪大学言語文化研究科）49 - 56頁.
- 2003年 4月 「黒澤映画と病気—『酔いどれ天使』の肺病と『生きる』の癌—」『映像と文化 III』（言語文化共同プロジェクト2002・大阪大学言語文化研究科）11 - 32頁.
- 2002年 5月 「『文学評論とテーヌの『英文学史』』『英文学春秋』第11号 臨川書店 70 - 72頁.
- 2003年 4月 「子規と是空の脳病」『言語文化の比較研究』（言語文化共同プロジェクト2002・大阪大学言語文化研究科）11 - 32頁.
- 2003年 5月 「Hogarthの*A Rake's Progress*—消費と激情による狂気—」『英国小説研究』第21冊 英潮社 1 - 53頁.
- 2004年 4月 「『蛇淫』と『青春の殺人者』—暴力と土着性—」『表象と文化I』（言語文化共同プロジェクト2003・大阪大学言語文化研究科）7 - 14頁.

- 2005年 5月 「*Harlot's Progress* から *Pamela* へ ― キャノン生成の現場にて―」『英語青年』 5月号 66-67頁.
- 2005年 5月 「トラウマ小説としての『永遠の仔』」『表象と文化I』（言語文化共同プロジェクト2004・大阪大学言語文化研究科）11-20頁.
- 2006年 5月 「神経衰弱を中心とした明治期精神医学年表」『表象と文化I』（言語文化共同プロジェクト2004・大阪大学言語文化研究科）11-22頁.
- 2006年 5月 “Hogarth and Richardson: Looking into the Chamber of the Heart.” *The British and American Novel*. 13 (2006) . The Korean Society of the British and American Novel, Seoul. 115-23.
- 2006年 6月 「リチャードソンとフィールディング―「私」の中の心の病―」『英語青年』 133-35頁.
- 2007年 5月 「ホガースにおける諷刺とエロス」『英語青年』 66-70頁.
- 2010年 3月 「ピアードと神経衰弱」『関東学院大学人文科学研究所報』 第33号 61-83頁.
- 2010年12月 「モラル・ジレンマと小説の起源」『関西英文学研究』 第4号 169-178頁.
- 2012年 5月 「オースティン、ショック、神経―『説得』を中心に―」『ジェイン・オースティン研究』 第6号 1-28頁.

翻 訳

- 1988年 3月 『トマス・ハーディ随想集』 共訳 執筆分担 22-47頁 千城出版.
- 1991年11月 『小説と反復：7つのイギリス小説』 共訳 執筆分担 30-54頁 英宝社.
- 1998年11月 『ロビンソン・クルーソー挿絵物語―近代西洋の200年―』 デイヴィッド・ブルーエット 共訳 執筆分担 88-120頁 関西大学出版会.
- 2009年12月 『イギリス詩人伝』 サミュエル・ジョンソン著 共訳 筑摩書房 執筆分担 「リチャード・サヴェッジ」 263-342頁.

雑 録

- 1988年 6月 『英語・英文学ハンドブック』内多毅監修 執筆分担 デフォーの項 100-105頁 創元社.
- 1988年 4月 『Love, Abby』英語テキスト 共注 南雲堂
- 2001年 4月 「柴田先生の『英語と英文学』」(柴田徹士先生を偲んで)『英国小説研究』第20冊 英潮社 7-14頁.
- 2007年 4月 「廣瀬さんのこと」(『廣瀬雅弘著作集』あとがき)『廣瀬雅弘著作集』廣瀬雅弘著作集を出版する会 356-59頁.

研究活動

日本英文学会員 全国大会準備委員 2000年5月より2004年まで。
日本英文学会学会誌『英文学研究』編集委員 2003年4月より2006年3月まで。うち、2005年4月より2006年3月まで編集委員長。

日本比較文学会会員 日本比較文学会学会誌『比較文学』編集委員
1999年4月より2002年まで。2011年3月より2013年3月まで。
日本比較文学会学会誌『比較文学』編集委員長
2009年4月より2011年3月まで。
2002年から2004年まで関西支部庶務委員(事務局長)。
2007年から2015年3月まで全国選出理事。
2017年6月から 学会誌編集委員現在に至る。

関西18世紀英文学研究会世話人 平成15年までほぼ10年間。

日本ジョンソン協会会員

日本ジョンソンクラブ会員

e-Learning 教育学会会員 2007年より2017年まで副会長。

